

第29回 四国ストーマリハビリテーション講習会

—基礎コース—

学習目標

GIO : General Instruction Objective

一般目標 : 学習の成果を表現したもの—期待される学習成果

SBO : Specific Behavioral Objectives

行動目標 : 学習者がGIOを達成したという時、何ができるようになっているか

【講習会の目標】

排泄に問題を抱える人の健康的な日常生活への復帰を効果的に援助できるようになるために、ストーマリハビリテーションの基本的能力（理念、知識、技能、態度）を修得する。

1. ストーマリハビリテーション概論

GIO : ストーマを造設する／した患者とその家族の身体的・心理的・社会的な側面からのケアができるようになるために、ストーマリハビリテーションの基本的な知識を正しく理解し、患者とともに問題を解決する能力を習得する

SBO : 1) ストーマとは何か説明できる

2) リハビリテーション医学におけるストーマリハビリテーションの特徴について説明できる

3) インフォームドコンセントの必要性を説明できる

4) ストーマからの排泄とボディイメージの変化が患者に及ぼす影響を説明できる

5) ストーマを造設する患者がセルフケアを行うことの重要性を説明できる

6) ストーマリハビリテーションにおけるキーパーソンの意義を説明できる

7) ストーマ造設に伴う患者の心理状態の変化の概略を説明できる

8) 患者の受容過程に応じた援助方法を説明できる

9) ストーマ造設術前処置の診療報酬（医療制度）^{*1)}に関連する要件が説明できる

^{*1)} 人工肛門・人工膀胱術前処置加算

2. 消化管ストーマ

GIO : 消化管ストーマの種類に応じたケアが行えるようになるために、消化管ストーマの種類ならびにそれらが造設される疾患・合併症について理解する

SBO : 1) 消化管ストーマの種類^{*2)}を説明できる

^{*2)} 期間による分類（一時的ストーマ、永久的ストーマ）、

造設臓器による分類（結腸ストーマ、小腸ストーマ）、

形態による分類（単孔式ストーマ、双孔式ストーマ、ループ式、分離式）

2) 消化管ストーマの構造^{*3)}について説明できる

^{*3)} 腹膜外法、腹膜内法、粘膜翻転術、一次開口

- 3) 消化管ストーマが造設される主な疾患^{*4)}を説明できる
 - ^{*4)} 直腸癌（大腸癌）、炎症性腸疾患（CD、UC）、大腸憩室炎、家族性大腸腺腫症、女性性器癌、放射線性腸炎、縫合不全（予防、治療）、他臓器癌の転移・再発、外傷
- 4) 消化管ストーマが造設される主な疾患でストーマが必要となる理由^{*5)}を説明できる
 - ^{*5)} 肛門を切除する場合、便を肛門側に流したくない場合
- 5) ストーマからの出血を来す病態^{*6)}と対策（医療的）について説明できる
 - ^{*6)} ストーマ静脈瘤、ストーマに発生した腫瘍、ストーマより近位の出血性病変
- 6) 消化管ストーマの皮膚障害以外の合併症^{*7)}を列挙し、その原因の概略について説明できる
 - ^{*7)} 壊死、脱落、粘膜皮膚接合部離開、狭窄、陥没、膿瘍、腸脱出、傍ストーマヘルニア、出血
- 7) 瘻孔とストーマの違いについて説明できる
- 8) 各種消化管ストーマからの排泄物の性状および皮膚に及ぼす影響の概略について説明できる

3. 尿路ストーマ

G I O : 尿路ストーマの種類に応じたケアが行えるようになるために、尿路ストーマの種類・疾患・合併症について理解する

- S B O :
- 1) 尿路ストーマに関連した泌尿器の構造と機能について概略を説明できる
 - 2) 尿路ストーマが造設される疾患^{*8)}を説明できる。
 - ^{*8)} 膀胱癌、周囲臓器疾患の膀胱浸潤、他臓器からの転移、外傷、放射線性膀胱炎
 - 3) 尿路ストーマが造設される疾患で尿路ストーマが必要となる理由を説明できる
 - 4) 尿路ストーマの種類^{*9)}と構造を説明できる
 - ^{*9)} 腎瘻、尿管皮膚瘻、膀胱瘻、回腸導管、禁制型尿路変向術
 - 5) ストーマを造設しない尿路変更術^{*10)}の特徴を説明できる
 - ^{*10)} 自排尿型尿路再建術など
 - 6) 尿路ストーマの皮膚障害以外の合併症^{*11)}を列挙し、その原因の概略について説明できる
 - ^{*11)} 尿路の各種通過障害、尿路感染症、腎不全、尿路結石、出血

4. 術前ケア

G I O : 患者が安心して安全に手術を受けることができることを支援するために、ストーマ造設の術前ケアの要点を理解し、患者の心理状態や社会的背景に配慮しながら、アセスメントに基づいた術前準備をする能力を修得する

- S B O :
- 1) キーパーソンや実質的支援者を想定して社会復帰後までの工程表を作成できる
 - 2) 患者・キーパーソンへの術前オリエンテーションの重要性について説明できる
 - 3) ストーマ造設術の前処置^{*12)}について説明できる
 - ^{*12)} 経口摂取の制限・禁止とそれに伴う栄養管理、術前腸管処置
 - 4) 消化管・尿路ストーマ造設術の一般的な経過について説明できる
 - 5) 術前オリエンテーションの内容^{*13)}について説明できる
 - ^{*13)} ストーマの必要性、ストーマの種類、術式、装具管理の必要性、ストーマケア方法、セクシュアリティ、社会資源、日常生活（入浴、食事、仕事・学校等 注：詳細な内容はG I O 6で述べる）
 - 6) 患者の理解を促すツール^{*14)}について説明できる
 - ^{*14)} ストーマモデル、パンフレット、ストーマ装具等

- 7) ストーマの位置決めの意義と方法について説明できる（緊急手術を含む）
- 8) ストーマの位置決めができる（実習目標）
- 9) 術後に排尿障害、性機能障害がおりうることを説明できる

5. 術直後ケア

G I O : 患者がストーマを認識し、新しい排泄管理をスムーズに身につけられるよう支援するために、術直後ケアの要点を理解し、患者の心理状態に配慮しながら、術直後ケアをする能力を修得する。

- S B O :
- 1) ストーマ保有者への精神的援助の重要性を説明できる
 - 2) ストーマおよびストーマ周囲皮膚の観察のポイントを説明できる
 - 3) 術直後のストーマの特徴について説明できる
 - 4) 術直後のストーマケアの目標を説明できる
 - 5) 術直後に用いる装具の選択条件を説明できる
 - 6) 術直後に用いる装具が選択できる（実習目標）
 - 7) 術直後の装具交換ができる（実習目標）
 - 8) 術直後のスキンケアの手順を説明できる
 - 9) 術直後の尿路ストーマのカテーテルの適切な取り扱いについて説明できる

6. 社会復帰ケア

G I O : ストーマ保有者／支援者が新たな排泄管理を身につけて、安心して日常生活を送ることを支援するために、社会復帰ケアの要点を理解し、患者の心理状態に配慮しながら、退院に向けたケアをする能力を修得する

- S B O :
- 1) 社会復帰のケアの目標を説明できる
 - 2) ストーマ保有者の個々の状況^{*15)}に合わせたストーマ用品の選択基準を説明できる
^{*15)} 局所的状況（ストーマや腹壁の形状）、身体的状況（手の機能、ADLの状況）、社会的状況（高齢者、独居など）、生活状況など
 - 3) ストーマ保有者の個々の状況^{*16)}に合わせたストーマ用品を選択できる
(実習目標)
^{*16)} 局所的状況（ストーマや腹壁の形状）、身体的状況（手の機能、ADLの状況）、社会的状況（高齢者、独居など）、生活状況など
 - 4) セルフケアの指導方法^{*17)}の要点について説明できる
^{*17)} 成人教育の要点、自己効力、段階的な進め方等
 - 5) 退院後に病院に連絡するほうがよい状況や受診すべき状態を説明できる
 - 6) ストーマ保有者の日常生活の留意点^{*18)}について説明できる
^{*18)} 食事、入浴、旅行、スポーツ、職業・学校等
 - 7) ストーマ用品の管理方法^{*19)}について説明できる
^{*19)} 入手方法、保管方法（破棄方法はストーマ用品で述べる）
 - 8) 灌注排便法による排便の意義を説明できる
 - 9) 灌注排便を行うことが少なくなってきた理由を説明できる
 - 10) 灌注排便法の利点と欠点を自然排便法と比較し説明できる
 - 11) 灌注排便法の適応と禁忌を説明できる

7. 継続ケア

G I O : ストーマ保有者が安心して日常生活を送れるように、継続して適切なケアを提供するため、医療制度を理解し、社会的背景に配慮した退院後のフォローアップ方法や、地域への連携方法について修得する

S B O : 1) ストーマ保有者が活用できる社会保障制度^{*20)}を説明できる

^{*20)} 身体障害者自立支援法、年金法、自治体による助成、難治性特定疾患、社会適応訓練事業、介護保険

2) 社会保障制度を活用するための手順の概略を説明できる

3) 在宅におけるストーマケア支援のために介護保険と医療保険で活用可能な支援内容を説明できる

4) 外来でのケアの目標を説明できる

5) 外来でのフォローアップを行うことができる（演習目標）

6) ストーマ外来などのフォローアップのための、診療報酬（医療制度）^{*21)}に関連する要件が説明できる

^{*21)} ストーマ処置料、在宅療養指導料、在宅自己導尿指導料

7) ストーマ保有者の社会的背景に配慮した社会資源の提案ができる（演習目標）

8) ストーマケアを継続するために必要な資源（院内^{*22)} 院外^{*23)}）を説明できる

^{*22)} MSW、退院調整看護師等

^{*23)} 地域連携病院、介護福祉施設、訪問看護ステーション等

9) ストーマ保有者の障害者団体について説明できる

10) オストミービジターの概略と功罪について説明できる

8. スキンケア

G I O : 予防的スキンケアを実践し、ストーマ周囲の皮膚障害に対応するために、皮膚の生理機能と基本的スキンケアについて理解し、対策方法を修得する

S B O : 1) 予防的スキンケアの必要性を説明できる

2) ストーマに関連した皮膚の構造と機能について説明できる

3) 皮膚障害の原因^{*24)}について説明できる

^{*24)} 浸軟、刺激物の接触、機械的刺激、感染、排泄物、皮膚保護剤のアレルギー、化学療法、放射線療法、皮膚疾患等、

4) 閉塞環境下での正常皮膚の反応について説明できる

5) 絆創膏皮膚炎について説明できる

6) 基本的スキンケア^{*25)}について説明できる

^{*25)} 洗浄、保湿、保護

7) 基本的スキンケア^{*25)}が実施できる（実習目標）

^{*25)} 洗浄、保湿、保護

8) 皮膚保護剤の薬理作用^{*26)}の機序について説明できる

^{*26)} pH緩衝能、静菌作用、吸水作用等

9) ストーマ周囲皮膚の観察点を説明できる

10) ストーマ周囲皮膚障害をアセスメントすることができる（演習目標）

11) ストーマ周囲皮膚障害の対策について説明できる

12) ストーマ周囲皮膚障害の状況^{*27)}に応じた皮膚保護剤の使用方法について説明できる

^{*27)} びらん、潰瘍等

13) 術前のパッチテストの意義について説明できる

9. ストーマ用品

G I O : 個々のストーマ保有者に合わせた適切なストーマ用品を選択するために、ストーマ用品について理解し、取扱いの基本的技能を修得する

- S B O :
- 1) ストーマ用品とは何かを説明できる
 - 2) ストーマ用品の歴史的変遷について説明できる
 - 3) 皮膚保護材の種類と特徴について説明できる
 - 4) ストーマ装具の種類と特徴について説明できる
 - 5) そのほか^{*28)}のストーマ用品の種類と特徴について説明できる
^{*28)} 固定具、脱臭剤、粘着剥離剤、皮膚被膜剤、脚用畜尿器、袋カバー、排出口閉鎖具、尿排出口閉鎖具等
 - 6) ストーマ保有者に適したストーマ用品が選択できる (実習目標)
 - 7) ストーマ用品の基本的取扱い方法を説明できる
 - 8) ストーマケアに必要な物品を準備できる (実習目標)
 - 9) ストーマサイズ、状況に合わせて面板を切ることができる (実習目標)
 - 10) ストーマ装具を適切に剥がすことができる (実習目標)
 - 11) ストーマ周囲皮膚の汚れを落とすことができる (実習目標)
 - 12) ストーマ周囲皮膚を適切に乾かすことができる (実習目標)
 - 13) ストーマ装具を適切に装着できる (実習目標)
 - 14) ストーマ袋内の排泄物が処理できる (実習目標)
 - 15) ストーマ用品の破棄方法が説明できる
 - 16) 必要に応じてそのほかのストーマ用品^{*29)}を使用できる (実習目標)
^{*29)} 固定具、脱臭剤、粘着剥離剤、皮膚被膜剤、脚用畜尿器、袋カバー、排出口閉鎖具、尿排出口閉鎖具等
 - 17) ストーマケアを応用したパウチング法について説明できる

10. ストーマ造設術に関連した排尿障害・排便障害

G I O : 排尿・排便障害に悩むストーマ保有者を支援するために、ストーマ造設術に関連した排尿・排便障害の発生機序について理解し、障害の種類と程度に応じたケアを提供する能力を修得する

- S B O :
- 1) 失禁の概念が説明できる
 - 2) ストーマ造設術に伴う排尿障害の発生機序について説明できる
 - 3) 排尿障害による全身及び上部尿路への影響について説明できる
 - 4) 排尿障害の対処法^{*30)}を説明できる
^{*30)} 薬物、自己導尿、スキンケア、パッド、骨盤底筋訓練、バイオフィードバック等
 - 5) 残尿の定義と測定法について説明できる
 - 6) 自己導尿の適応を説明できる
 - 7) 残尿が自己導尿の回数決定の目安となることを説明できる
 - 8) 自己導尿を中止してよい時期が判断できる
 - 9) 自己導尿の方法を説明できる
 - 10) ストーマ閉鎖術に伴う排便習慣の変化の発生機序について説明できる
 - 11) 排便習慣の変化による問題点を説明できる
 - 12) 排便習慣の変化による問題の対処方法^{*31)}を説明できる
^{*31)} 薬物、食事、スキンケア、パッド、骨盤底筋訓練、バイオフィードバック等

11. 性機能障害

G I O : ストーマ保有者の性の問題を援助できるようになるために、骨盤内手術に伴う性機能障害の発生機序を理解し、障害の程度に応じたケアを提供する能力を修得する

- S B O :
- 1) セクシュアリティの概念について説明できる
 - 2) 性機能障害を生ずる機序について説明できる
 - 3) ストーマ保有者の性の問題への援助の重要性について説明できる
 - 4) 性機能障害について薬物療法の概略を説明できる
 - 5) 性機能障害について手術療法を説明できる
 - 6) セクシュアリティにおける心理面の重要性について説明できる
 - 7) 性機能障害について相談窓口（人的資源、システム等）を説明できる

12. 小児ストーマケア

G I O : ストーマ造設をする／した小児とその家族の心身両面にわたるケアが行えるようになるために、小児ストーマの特徴を理解し、患児と家族をサポートしながら小児ストーマケアを適切に行う能力を修得する

- S B O :
- 1) 小児ケア全体に関連する特徴^{*32)} について説明できる
^{*32)} 皮膚の特徴、排泄物の性状、成長発達段階、意思決定能力、社会環境等
 - 2) ストーマが造設される疾患^{*33)} とその必要性を説明できる
^{*33)} ヒルシュスブルング病及び類縁疾患、直腸肛門奇形（鎖肛）、膀胱腸裂、低出生体重児特有の未熟性に基づく異常（新生児壊死性腸炎、特発性小腸穿孔、胎便関連性腸閉塞）
 - 3) ストーマ造設方法と経過及び合併症について説明できる
 - 4) 小児ストーマ造設術前の家族の心理調整について説明できる
 - 5) 小児ストーマの位置決めの特殊性について説明できる
 - 6) 小児ストーマの術後ケアの特殊性（ストーマ周囲皮膚炎を含む）を説明できる
 - 7) 小児の管理的合併症の予防ケアについて説明できる
 - 8) 小児ストーマケアについて環境調整、家族指導の必要性が説明できる
 - 9) 小児の経済的問題、社会保障制度についてソーシャルワーカー等に相談できる
 - 10) 小児のストーマ用品の選択とストーマケアの要点が説明できる
 - 11) ストーマ閉鎖後の排便管理の必要性について説明出来る

13. 管理困難なストーマケア

G I O : 管理困難なストーマを持つ人が安心して日常生活を送れるように支援するために管理困難なストーマの知識を身につけ、心身両面からのケア対策を修得する

- S B O :
- 1) 管理困難とは何か説明できる
 - 2) ストーマ合併症^{*34)} の種類を説明できる。
^{*34)} 壊死、粘膜皮膚接合部離開、狭窄、陥没、膿瘍、腸脱出、傍ストーマヘルニア、出血、ストーマ静脈瘤、代用膀胱内結石、尿路感染等（皮膚障害はここでは述べない）
 - 3) それぞれのストーマ合併症の予防策の概略が説明できる
 - 4) 管理困難に陥る状況^{*35)} について説明できる
^{*35)} 皺、癬痕、凹み、術創、骨突出等
 - 5) 管理困難なストーマを有する患者の心情に配慮することができる
 - 6) それぞれの管理困難なストーマに対して適切なストーマ装具の選択の要点について説明できる

- 7) それぞれの管理困難なストーマに対して適切なストーマ装具選択ができる
(実習目標)

14. リスクマネジメント

G I O : 周術期から継続的なストーマケアを安全に提供するために、感染対策やリスクマネジメントの原則を理解し、初めてセルフケアを経験する患者の不安に配慮しながらストーマケアを指導する能力を習得する

- S B O : 1) ストーマケアの場で、標準予防策、感染経路別予防策を遵守できる
2) 皮膚保護材を用いた排尿・排便法、灌注排便法で、危険な自己管理につながる行為を説明できる
3) 緊急に病院に連絡すべき術後合併症^{*36)} やストーマの合併症^{*37)} の症状を説明できる
^{*36)} 創感染、イレウス、脱水、尿路感染等感染症状等
^{*37)} 壊死、狭窄、陥没、腸脱出、傍ストーマヘルニア、出血等
4) 地域のごみ処理のルールと医学的な感染対策が両立する装具の廃棄方法を説明できる
5) 位置不良がもたらすストーマの合併症を説明できる
6) ストーマ保有者が遭遇する不安に対処する方法を説明できる
7) 安全な継続的ストーマケアのために、ストーマ外来や多職種連携が重要であることを説明できる

15. がん化学療法

G I O : がん化学療法中のストーマ保有者が安全かつ安心して生活/セルフケアできるよう支援するために、がん化学療法が及ぼす影響を理解し、全身的な対策とストーマケアを修得する

- S B O : 1) がん化学療法の概要を説明できる
2) がん化学療法の副作用について概要を説明できる
3) がん化学療法によってストーマ保有者に起こりうる問題点^{*38)} を説明できる
^{*38)} 手足症候群、下痢、便秘、皮膚障害
4) がん化学療法の曝露予防対策の必要性について説明できる
5) がん化学療法中のストーマ保有者に対して、排泄物、ストーマ装具の適切な破棄方法と理由を説明できる
6) がん化学療法中のストーマ保有者に対して、排泄物による汚染時の適切な取扱いについて説明できる

16. 緩和ストーマ

G I O : 症状の緩和を目的に造設されるストーマ（緩和ストーマ）の保有者や、終末期を迎えたストーマ保有者が安楽な生活を送れるよう支援するために、身体的・局所的状況・心理状態を理解し、個々に添ったケアを提供する能力を修得する

- S B O : 1) 緩和ストーマの定義を説明できる
2) 緩和ストーマ造設が適応となる条件を説明できる
3) 緩和ストーマ造設の術式（種類）^{*37)} を説明できる
^{*37)} 消化器、尿路、カテーテルの有無、内視鏡的演技、腹腔鏡下など
4) 緩和ストーマに対するストーマの位置決め^{*38)} の留意事項^{*38)} を説明できる
^{*38)} 造設部位・ストーマ形態・ストーマの高さへの配慮など
5) 緩和ストーマに関連した主なストーマの合併症^{*39)} と対策を説明できる
^{*39)} 腹圧上昇による浮腫、腸脱出、ストーマ近接部への皮膚転移など

- 6) ストーマ管理に関連する終末期の身体的変化（全身・局所）^{*40)}を説明できる
^{*40)} やせ・腹水・ADL低下・皮膚の脆弱化など
- 7) 緩和ストーマにおける社会復帰用装具の留意点を説明できる
- 8) 終末期のケアに用いる装具を選択・購入するときの留意点を説明できる
- 9) ストーマ保有者が持つ終末期の不安への適切な対応方法を説明できる
- 10) 死去後のストーマの処置における選択肢^{*41)}を説明できる
^{*41)} 死去後のストーマの閉鎖の法的/倫理的問題点を含む

17. 災害時のストーマケア

G I O : 災害におけるストーマ保有者に予測される不利益に対処できるようになるため
災害時のストーマ保有者の不安と災害対策の概要を理解し、被災地の内外からサポートする
方法を習得する

- S B O :
- 1) 被災時のストーマ保有者における心理的变化に配慮できる
 - 2) ストーマ保有者に必要な災害の備え^{*42)}について説明できる
^{*42)} 非常用持ち出し用品、ストーマ用品の備蓄、連絡先（病院、販売店）、ストーマのタイプ等のチェックリスト
 - 3) 災害発生時の支援^{*43)}について説明できる
^{*43)} ストーマ用品支援物資、ストーマ装具の無償提供期間について
 - 4) 災害発生時の支援の受け方^{*44)}について説明できる
^{*44)} 支援物資などの受け取り法
 - 5) JSSCR（日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会）、JOA（日本オストミー協会）、OAS（ストーマ用品セーフティネット連絡会）の三者の災害対策の連携について説明できる
 - 6) 市区町村が整備を進めているストーマ用品の備蓄の実際を説明できる
 - 7) 災害対策ブロックの災害対策について説明できる